

令和５年度 第３回 立川市スポーツ推進審議会 会議録

(基本情報)

会議名称	令和５年度 第３回 立川市スポーツ推進審議会
開催日時	令和６年３月１４日（木曜日） 午後７時００分～午後９時００分
開催場所	立川市役所本庁舎 ２１０ 会議室
次第	１ 立川市第３次スポーツ推進計画策定に向けた提言について ２ その他
資料	資料１ 立川市におけるスポーツ推進計画策定の経過等 資料２ 国及び東京都のスポーツ政策の動向 資料３ 第３次スポーツ推進計画策定に向けた方向性について（案） 参考資料 東京都スポーツ推進総合計画の改定について
出席者	[委員] 原田 尚幸、松原 幸子、福原 憲生、山口 聡、永島 康雄、 原 宏樹、森川 良行、出倉 光一、竹内 涼子 [事務局] 井上 隆一（産業文化スポーツ部長）、中村 達也（スポーツ振興課長）、 上野 聖（管理係長）、木村 誠（スポーツ振興係長）、秋元 公貴（主査）、 小山田 久（スポーツ振興係）
公開及び非公開	公開
傍聴者数	０人
担当	産業文化スポーツ部スポーツ振興課スポーツ振興係 電話 ０４２-５２９-８５１５

1 開会

2 報告・協議

(1) 立川市第3次スポーツ推進計画策定に向けた提言について

事務局（スポーツ振興課長）から資料1～3に基づき説明

- ・基本理念を定め、それに合致しているかを常に立ち返る
- ・第2次と同じ理念とするのが楽な手法である
- ・国・都・立川市の施策にぶら下がるのが楽な手法である

- ・いったんゼロベースで頭に浮かんだキーワードを書き出してほしい
否定や批判ではなく
正解はない
単語でも構わない

若い人と高齢者が一緒にできること
子ども向けのスポーツを何かできないか（ボッチャ）
青年層が夜に手軽にできるトレーニング
子ども会がない町会が8町会中3町会ある

ふるさと
しあわせ
思い出
立川ダイスは何のために存在しているのか

地域に愛着を感じるのは良いこと
広島出身だからわかる
市民が同アプローチしていくか

人生喜びをもってつき進めることが大事
スポーツを通じて喜びを持てる
スポーツで大事なことは人生で大事なことがいっぱい含まれる

平和でなければできない
スポーツと平和
立川市はスポーツを推していることを前面に出したら
受け止め皿を多く
スポーツをやったらポイントが付き、ためたくなるような制度があれば

※かわさき TEKTEK

川崎市ではウォーキングアプリ「かわさき TEKTEK」を活用した新たな健康事業を令和5年10月から開始

参加者は、歩いてアプリ内で貯めたポイントを応援したい川崎市立の小学校から選んで寄付する

ポイントを子どもたちの体力づくりに
共生、みんなで楽しむスポーツ、健康
多くのスポーツの機会に触れられる
地域をまたいでチームづくり
大会でなくつどい

わくわくの和・輪、笑顔、エンジョイ、歩こう

子どもが主体的に体を動かす、遊び

合理的な配慮、多様性
できあがった遊びはオリジナリティがある
やっている人も楽しく、見ている方も面白い

ゴミ拾いもスポーツ
遊びとしてとらえる

地区体育会で運動会など開催
体育館まつり 誰でも体験、参加できる
親子をメインに参加してもらえれば誰でもできる
「つながり」、「わ」が三つ

地域で昭和 20 年 12 月に運動会が始まった
スポーツに飢えていたのでは
勝負だけだと子どもが集まらない
遊び、レクリエーションスポーツなら集まってくる

プロスポーツから地域スポーツまでないものはない
「わ」スポーツを通じて和が広がる

「分かり合う」ことが求められる
アイデンティティでよくわかる
「きっかけづくり」いろいろなスポーツをやっていく

生きることには必要ではない
平和でなければできない
出された言葉を理念として実行に移す段階で使いたい

ダイスのチームカラーは青とオレンジ
ニューヨークメッツと同じ
立川の色は
市章は紫、自治会も紫

立川発祥のスポーツはミニテニス
教えるときに手話を覚えた

学校での教材開発
タッチベースボール ボールにタッチしたら点を取れる
楽しめる場づくり

スポーツ施設を使って何ができるか
コミュニティの希薄化
社内運動会が復活してきている
その結果 70%にいいかい
原案が出てきてから審議会で議論

対象者は外国の方（外国籍・留学生）もイメージしているか
もちろんイメージしている
運動会で子どもが集まっているとき、かけっこが遅い子にポスターを描かせる
絵を描くのもスポーツか？
ペインティングスポーツでも良い
よさこいはスポーツか？

動いて汗をかけばスポーツ

地域の運動会で車いすの人が3人パン食い競争に出てくれた

3 その他

(1) 委員からの情報提供

事務局（スポーツ振興課長）から資料1～3に基づき説明

- ・立川シティハーフマラソンにボランティアとして参加した
ハーフマラソンにも参加した
- ・今年度から小学校の水泳指導の民間委託を始めた
専門の方に指導していただけていつでもできるメリット
移動は貸し切りバス
- ・中学校の特別支援学級が昭島市にある栗田工業のラグビー場を使わせてもらった
立飛企業にはスポーツ施設を作っていただいている
いなければ本社があるので、何かやってくれないか
- ・健康支え隊、栄養食事関係の教室、ヨガ、健康体操
浅川の河川敷でスペインの方とグランドゴルフをやった
高校生と高齢者がゲートボール
高校生の大会もある
地域のつながりができる防災
バケツリレーを競技にしたら→防災スポーツ
- ・介護を受けている方は動かない人が多い
リハビリではなくスポーツをやれば（健康体操など）
- ・健康ポイントがある
- ・参加して楽しい体験をすることが大事
来てもらい楽しんでもらい、それがスポーツになってしまう
場を上手に作ってあげる
親がスポーツをやっていれば子どももスキーをやっていて、子どもと孫も友だちができるきっかけ
づくり
- ・どこかへ来てくださいという待ちの戦略ではなくて地域へ出向くという自ら出ていく戦略
- ・錦町体育会
第三小学校でボッチャ大会を行った
競輪の研修を立川出身の女性選手3人をお願いして行った
- ・交通へき地はウォーキングに適している（例：陸の孤島といわれている鹿屋市）
→健康増進につながる
- ・地元に大きな企業があればお金を出してもらおう（口出しをせず）

事務局

- ・市民アンケート
一般向けは1割くらい回答があった
小中学生向けは4月以降に実施予定
次の審議会開催時にアンケートの集計状況を報告したい

閉会